

令和4年度学校関係者評価報告書

学校法人コア学園
飯田コアカレッジ
学校評価委員会

学校法人コア学園 飯田コアカレッジ 学校評価委員会は、令和4年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を実施し、その結果を以下のとおり報告いたします。

1. 令和4年度学校関係者評価委員（令和5年2月24日現在）

企業等	矢崎 孝弘氏	株式会社矢崎製作所 代表取締役社長
	熊谷 克利氏	信菱電気株式会社 総務部長
	木下 浩文氏	みなみ信州農業協同組合総務企画部人事教育課 課長
	福澤 栄二氏	飯田商工会議所 専務理事
	桜井 裕司氏	飯田市総務部 総務文書課 課長
高等学校	有馬 乃氏	飯田女子高等学校
卒業生	上沼 章氏	みなみ信州農業協同組合 本所金融部
事務局（学校）	牧島 晃	飯田コアカレッジ 学校長
	遠山 千尋	飯田コアカレッジ 教頭

2. 自己評価報告について

昨年に引き続き教育活動に専門分野における人材育成が低い結果となり、学生数が急増したため、教職員数の確保の課題が継続しているのが現状である。学生の満足度を維持するために、「習熟度別授業」「探究学習」を展開し、学生の能力伸長と社会人基礎力の醸成を図っている中で、即戦力となる教職員の確保は喫緊の課題であると考え。習熟度別のクラス編成により、学生の満足度と資格取得数は向上したが、職員の負担は大きく、厳しい職員体制により研修の時間が確保できていないことも職員の育成も課題となっている。一方で高校のクラス数の減少という現実もあり、今後の学生募集において一定の学生数の担保ができなければ、正規職員の採用については躊躇することにもなる。

カリキュラム内容は、地元の企業の方等で構成している教育課程編成委員会でご意見を伺いながら改善し、地元企業のニーズに合った科目や学生が関心のある分野の導入に努めたい。

財政面では、学生数の増加により今年度決算および次年度についても黒字を見込んでいるが、光熱水費や消耗品等の高騰により、引き続きの経費節減に加えて学生数の充足とともに、職員の生活を守る中長期的な財務基盤の安定を図るに、これからの学校運営についてそのあり方を見直す時期になっていると考える。

3. その他意見交換

今後の AI や DX の発展により、減っていく仕事もあるが新たな職種も増えてくることが想定されるものの、世の中が大きく変化し 2 年先の展望が見えない現状である。それを踏まえた学校の方針を検討するとともに、地域全体で研究していくことが必要である。また、都市部での状況を知ることにより対策もできると考えるので、コア学園グループ本部から情報を提供してもらい、研究することが望ましいとのご意見がありました。また、義務教育でも部活動は社会体育のように先生たちがあまり関わらないようになっている。学生との関りにおいて教員の負担が大きいならば早急に考えなければならないが、職員の数が少ないことで学生のサポート体制について厳しいのであれば、勤務体系を見直すなど、就労時間内で仕事が完了できる環境にすべく学園本部のサポートを依頼すべきでとのご提案がありました。

学生の就職先として AI 等の普及により産業構造が変化していくため、今までのように協賛会企業の採用も減ることも想定し、変化を察知する仕組みの構築が求められているとのご意見もあり、今後は社会の情勢にもアンテナを張り、学びの環境を整えていくことを申し合わせました。

デジタル人材の育成の基盤として飯田コアカレッジは期待されている。プログラミング教室開催等を通して、DX を推進している企業にアピールできると考える。また企業誘致のとして今後はサテライトオフィスも増えていけば地元での仕事が可能であるとのご意見がありました。リニアの開通とともに都会へ流出が懸念されるが、若者に対して、IT の知識と技能は都会でなくても学べることをアピールすることが重要であり、行政や経済団体との連携を強化してアイデアを出していくことを申し合わせた。

以上